

# 沖縄県小児保健協会の10年

1983年

# 歴代会長



初代会長 (故) 仲地吉雄  
4代



2代会長 稲福盛輝



3代会長 佐久本政彦



現会長 知念正雄

# 沖縄県小児保健協会

## 創立10周年を迎えるにあたって

(社) 沖縄県小児保健協会 会長

知念正雄



この度、沖縄県小児保健協会が創立10周年を迎えることになり、会員の皆様と共に喜びにたえません。さらに、本協会をここまで成長させて下さった関係各位に、深く感謝申し上げます。

思えば昭和47年の日本復帰と共に、当時日本小児保健協会の役員であられた船川幡夫先生のご指導をいただき、稲福盛輝先生、山本達人先生、故仲地吉雄先生、小生など、数人の発起人が何回かの話し合いをもち、県庁環境保健部予防課の全面的なご協力のもとに、本会の発会式を昭和48年7月28日に許田商会の若松ホールで挙行了のが発端でした。あれから10年経過した今日においても、私達の協会が実質的な活動を続けていることは、大変すばらしいことです。本協会の代々の会長であられた故仲地先生、稲福先生、佐久本先生が、秀れた指導力と大いなる情熱をもって協会を運営してこられたので、会員の団結力と実践力が培われ、本協会が着実に活動を続けてこれたものと思います。とくに故仲地先生が、昭和57年の第29回日本小児保健学会を沖縄で開催したきっかけを作られたご功績は大きく、本協会の歴史上銘記すべきことでしょう。

さて、本協会は発足当初から、乳児一般健康診査を県から業務委託されて、この10年間実施して参りました。この乳児健康診査は、現在では宮古、八重山は勿論、南部や北部の小さな離島まで含めて、全県にわたって実施しておりますが、本協会の大きな事業であり、協会の活動が10年もの長い間続いている原動力の1つであります。乳児健診という1つの業務の中で、医師、保健婦、看護婦、検査技師、行政の方々、母子保健推進員など、各方面の方々が、同じ場所で忙がしく活動しているので親しみが湧き、小児保健という共通の目標に向って気軽に参画できることは、他府県にはみられないユニークな協会であります。さらに県当局は、小児保健に対する理解が深く、本協会の活動を積極的に推進して下さいしております。お陰様で本協会は各種の活動を通して沖縄の小児保健の向上に寄与することが出来たと思っております。

次に、ここでは非ふれておきたいことは、東京大学母子保健学教室の平山宗宏教授をはじめとする多数の県外の先生方による健診活動であります。平山先生のグループは、昭和49年以來ずっと宮古、八重山地区の

乳幼児一斉健診に参加され、学術的にも数多くの貴重なデータを集積し、発表してられました。先生方が、地元の私達以上に沖縄のこども達の健康のために長い年月にわたりご尽力いただきましたことに対し、全く頭の下る思いがいたします。先生方の沖縄に於ける小児保健活動は、本協会と深い関わりをもち、地元の私達に大きな刺戟と勇気を与えております。ここにあらためて感謝申し上げますとともに、今後も引き続きご指導下さいますように、心からお願い申し上げます。

さて、本協会はこの10周年を契機として、尚一層の飛躍を遂げねばなりません。この10年間に沖縄の小児保健の状況は著しく変化し、向上してきております。これまで「子沢山の多産県、であった本県においても、出生率が低下し、乳児死亡率も全国並みになっております。したがって、これからの小児保健は、少なく生れる子どもを健康ですこやかに育成する努力と同時に、家庭環境、社会環境の中での子どもの健康をたえず考えていかなければならないと思います。そのためには、関連領域で活動している多くの方々とCommunicationをよくし、共に「子どものしあわせ」のために活動していく必要があります。

本協会が10周年を迎えるにあたり、その歴史をふりかえり、よってこれからの方向（未来）を展望することは、大変意義深いことです。会員皆様のこれまでのご努力、ご協力に感謝いたしますとともに、今後ともなお一層のご協力をお願いする次第です。さらに県環境保健部、日本小児保健協会はじめ、関係各位におかれましても、今後ともよろしくお引き立ていただきたく、心からお願い申し上げます。